

第1章 放送界の動き

放送と通信の融合が一層進む中、2015年度は、4K・8Kをめぐる動きとともにインターネットによる動画配信の動きが活発化した。いずれの分野でも、既存放送局が踏み出す前に、さまざまな業種のメディアがインターネットを活用して新たなサービスを展開するケースが目立った。ニューメディアとの激しい覇権争いが始まるなか、伝統メディアと呼ばれるようになった放送界の対応が問われている。

I. 制度・政策

1. 4K・8Kの動向

15年6月に閣議決定された「日本再興戦略」改訂2015において、4K・8K技術の展開については「チャンネル数拡大に向けた新たな伝送路の確保のため、技術的実証と周波数割当等の必要な制度整備を17年までに行い、18年までに衛星放送において実用放送を実現する」と盛り込まれた。

(1) 4K実用放送

4Kをめぐるのは、14年から「次世代放送推進フォーラム」(放送事業者、受信機メーカー、ケーブルテレビ事業者などが会員のオールジャパンの組織、以下NexTV-F)等が、衛星放送(CS)とケーブルテレビ、IPTVにおいて4K試験放送を始めたのに続いて、NTTぷらら(「ひかりTV」)が4KのVODサービスを開始していたが、15年には、いよいよ4Kの実用放送が次々に始まった。

まず、スカパーJSATが3月から124/128CS放送で、4月からIPTV等により4K実用放送を開始し、11月にはNTTぷららがIPTVで、12月にはケーブルテレビがそれぞれ4K実用放送を開始した。ケーブル4Kは、日本ケーブルテレビ連盟(JCTA)が、全国統一編成によるコミュニティチャンネルとして開局したもので、地域の文化や魅力を伝える番組等を放送している。スタート当初から39社が参加した。

これらの動きに伴って、NexTV-Fの4K試験放送「Channel 4K」は、16年3月31日をもって放送を終了した。

(2) 衛星基幹放送の4K・8K放送

総務省の「4K・8Kロードマップに関するフォローアップ会合」は、15年7月、第二次中間報告を発表した。この中で、今後予定されている衛星基幹放送の4K・8K放送について、試験放送と実

用放送の詳しい内容が示された。

試験放送は、16年から、衛星セーフティネット終了後の空き周波数のBS17チャンネル(BS右旋)を使って行うことになった。試験放送を行うソフト事業者としては、NHKとNHK以外の基幹放送事業者(その後NexTV-Fと認定)の2者。試験放送は、NHKとNexTV-Fが、それぞれ4Kと8Kの放送を時間帯によって分担する“時分割”で実施される。また、17年には、110度CS左旋でも試験放送が開始されることになった。

一方、地上放送における4K・8K放送の実現については、「技術やコスト等の解決すべき課題は多い。このため、より効率的な伝送を実現すべく、速やかに総合的な研究開発の取り組みを進めて、その上で、技術的な可能性を検証するために、都市部における地上波によるパブリックビューイング向けなどの伝送実験等を検討することが考えられる」と述べるにとどまった。

18年から始まる4K・8Kの実用放送について、総務省は、「基幹放送普及計画」「周波数割当計画」等の関連省令の整備案を作成し、16年3月、電波監理審議会へ諮問し、原案適当との答申を受けた。計画では、4K・8Kの伝送路として左旋の使用を基本とすることが示された。チャンネル数の目標は、NHKが8K用にBS左旋1チャンネル、4K放送用にBS右旋1チャンネルの2チャンネル。NHK以外の事業者が、BS左旋で4K放送6チャンネル、BS右旋で4K放送2チャンネル(帯域再編が可能な場合は5チャンネル)、110度CS左旋が4K放送10チャンネルとなった。

この4K・8K放送の録画ルールとして、従来認められていなかった「コピー禁止」の運用が検討されていることが、15年12月にNexTV-Fが公表した運用規定でわかった。これに対して、主婦連合会とインターネットユーザー協会、電子情報技術産業協会が、「録画視聴の文化はすでに定着しており、一般視聴者に不便を強いることになる」などとして、従来通り「コピー禁止」は運用不可とするよう求める意見書を同フォーラムに提出した。

(4K・8Kについては第2章に詳述)

2. アナログ放送終了後のVHF帯

(1) V-low帯

テレビの地上アナログ放送で使われていた90.1～95MHzを活用したFM補完放送は、14年から始

まっていたが、15年12月に東京のTBSラジオ、文化放送、ニッポン放送のAM3局で、新たにスタートした。さらに16年3月には、大阪の毎日放送、朝日放送、大阪放送のAM3局でも本放送を開始した。AMラジオ放送と同じ番組をFMでも流すFM補完放送を実施するAM局は、これで合わせて17となった（親局のみ）。FM補完放送は、AMより音がクリアで、ビルやマンションでも受信しやすいなどの利点とともに、広い敷地が必要なAMより送信設備が手軽で設備更新がしやすいといったメリットがある。

一方、99～108MHzの周波数帯を活用した無料放送のV-lowマルチメディア放送は、16年3月から東京、大阪、福岡の3つの地域で始まった。今回はプレ放送という位置づけだが、将来的には7つの地域で全国をカバーする予定。音声だけでなく、映像、データ放送などの新サービスが地域ごとに提供される。中心となっているのはエフエム東京で、「i-dio」の名称でプロモーションを展開している。サービス開始時は専用スマートフォンWi-Fiチューナーによる受信で、Wi-Fiチューナーはモニターを対象に無料配布された。自動車搭載用のチューナーの販売も予定されている。クラシックなどの音楽専門チャンネル、ドライバー向けのチャンネル、映像専門チャンネルのほか、大阪や九州など特定の地区を対象にしたローカルチャンネルも用意された。専用スマートフォン以外の視聴には、Wi-Fiチューナーとスマートフォンとの接続が必要となる。

(2) V-high帯

V-high周波数帯（207.5～222MHz）については、携帯端末向けマルチメディア放送を行う地上基幹放送枠と位置づけられ、ハード事業者ジャパン・モバイルキャスティング（Jモバ）が持つ33セグ中13セグを利用し、12年にNTTドコモの子会社mmbiが運営する日本初のスマートフォン向け放送「NOTTV」が、放送開始した。リアルタイム放送に蓄積型も加えたマルチメディア放送を行い、14年度末までに加入者を175万件まで伸ばしたものの厳しい経営状態が続いた。

このため、15年度からは、無料2チャンネルを廃止し、有料2チャンネルのみにするなど編成を見直すとともに、BS/CSから新参入のアニマックス等6チャンネルとのバック販売を始めるなど巻き返しに向けた新戦略を展開した。しかし、インターネットによる映像配信の普及などで契約者が伸びず、事業の継続が困難と見込まれるとして、16年6月30日をもってサービスを終了することを

発表した。

3. 放送を巡る諸課題に関する検討会

総務省は15年11月、情報通信技術の進展で視聴者を取り巻く環境が変化していることを踏まえ、放送の課題を中長期的な展望を視野に入れつつ検討する「放送を巡る諸課題に関する検討会」をスタートさせた。検討する事項は、①今後の放送の市場及びサービスの可能性②視聴者利益の確保・拡大に向けた取組③放送における地域メディア及び地域情報確保の在り方④公共放送を取り巻く課題への対応など。独協大学の多賀谷一照教授を座長に学識経験者や行政、関係業界の人など16人がメンバーで、16年6月を目途に第一次取りまとめを行う。

4. ICT化アクションプラン

総務省は15年7月、20年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、社会全体のICT化を進めるためのアクションプラン（第一版）を公表した。放送関係では、4K・8Kの実用放送やデジタルサイネージを使ったパブリックビューイングの実現、放送コンテンツの海外展開の促進について「いつまでに、誰が、何をするのか」が明記された。

5. 地デジ化達成 難視対策完了

アナログ終了後の課題であったデジタル難視対策が完了し、暫定的に実施していた衛星セーフネット事業やCATVデジアナ変換サービスも15年4月末をもって終了した。これらにより総務省・NHK・地上放送で組織し、円滑な移行にあたった「デジタル放送推進協会」(Dpa)の解散が決まり、10年以上取り組んできた地上放送のデジタル化が受信環境整備を含めて完了した。

II. NHKをめぐる動き

1. テレビ・インターネット同時配信実験

15年2月に総務省が認可したNHKの「インターネット実施基準」では、テレビ放送中の同時配信は、ハイブリッドキャストサービスによる時差再生や、災害などの緊急の場合に限定した。また「試験的な提供」として、試験提供Aはスポーツイベント生放送のうち5件程度と対象番組を限定し、試験提供BはNHKの受信者から1万人以内の参加者を募って対象視聴者を限定して行われるこ

とになった。

このうち試験提供Aの同時配信の検証実験は、『2015NHK杯国際フィギュアスケート競技大会』が11月の27、28、29日の3日間の合計約10時間、『第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会 決勝』が16年1月1日の約2時間30分、「第53回ラグビー日本選手権 決勝」が1月31日の約2時間の計約14時間30分でいずれも総合テレビで行われた。期間中、大きなトラブルはなかったが、端末の処理時間の影響でテレビ放送に比べてネット配信には約50秒の遅延があった。訪問者数は、NHK杯フィギュアが8万4,000人、天皇杯サッカー決勝が8,000人、ラグビー日本選手権が3,000人であった。

一方、試験提供Bについては、10月19日から11月15日までの4週間、受信契約者とその世帯構成員から調査会社を通じて募集した一般視聴者957人とNHKネットクラブの実験参加者8,941人の計9,898人に対し、テレビ放送と同時にインターネットで配信する検証実験を開始した。配信は1日16時間以内で、契約上可能な番組のみで行い、視聴ニーズや各端末への対応、権利処理の課題等を検証した。

その結果、調査期間に同時配信を利用したのは、一般視聴者の8.9%、ネットクラブ参加者の66.4%で、平日の朝7時台、8時台にモバイル端末で利用する人が目立った。権利処理によって配信できた時間は、配信対象の78%にあたる345時間57分で、ニュースは94%だったのに対して、その他の番組は71%だった。NHKは同時配信の検証実験をA、Bともに16年度も継続する。

(第2章に詳述)

2. 決算

NHKの15年度決算によると、事業収入は14年度決算とほぼ同額の6,868億円で、事業支出は国内放送・国際放送の充実等により、104億円増の6,580億円だった。この結果、収入から支出を差し引いた事業収支差金は、14年度より107億円少ないものの288億円の黒字であった。事業収入のうち受信料収入は6,625億円で、14年度より131億円増えて過去最高となった。黒字分のうち278億円を東京の放送センター建て替えのための建設積立資産に繰り入れた。これによって15年度末の積立総額は1,627億円となった。

3. 予算

NHKの16年度予算は、3月の衆参本会議で採決され、自民党、公明党、おおさか維新の会など

の賛成多数で承認された。一方、民進党(衆議院本会議の際は民主党、維新の党)、共産党、社民党などは反対し、14年度、15年度予算に続いて全会一致ではなかった。

16年度予算は、事業収入が7,016億円で、契約件数の増加等による受信料の増収等で、15年度に対して185億円の増収。事業支出は、6,936億円と15年度より167億円多くなっている。増収分は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックや、第24回参議院議員選挙、4K・8Kの試験放送への対応など、放送の充実に重点的に配分する。事業収支差金80億円は、全額を建設積立資産に繰り入れる。

4. 番組

15年は、日本でラジオ放送が始まって90年の節目にあたり、記念番組が制作・放送された。このうちラジオ第1では、15年3月19日午前6時から22日24時まで、『90時間ラジオ〜もっと届け、大切なこと』が放送された。また、総合テレビでは、『放送90年ドラマ』として、8月から9月に「経世済民の男」3部作が放送されたほか、16年3月からは『放送90年大河ファンタジー 精霊の守り人』が放送された。また、戦後70年の関連番組として、1月から8月にかけての『NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像』などが放送された。(P.15~18資料参照)

ビデオリサーチの関東地区の視聴率によると、15年の『NHK紅白歌合戦』は、前半が34.8%、後半が39.2%だった。前後半の二部制となった89年以降、後半では、最も低い視聴率となった。関西地区の後半は43.0%で、前年比では0.3ポイントの減少だった。

また、『朝の連続テレビ小説』の期間平均の視聴率は、「まれ」が19.4%、「あさが来た」が23.5%で、「あさが来た」の視聴率は、21世紀に入ってから最高となった。

報道番組『クローズアップ現代』の国谷裕子キャスターが、16年3月の放送を最後に出演を終えた。国谷キャスターは、93年の番組開始から23年間、3,784回にわたって出演した。16年度からは後継番組として、月~木曜の午後10時から『クローズアップ現代+』が放送されている。

5. 国際放送

NHKの国際放送がはじまって、6月に80年を迎えた。この節目に、NHKワールドTVの番組をセレクトし『世界とつながるNHKワールドTV』

を総合テレビで放送したほか、NHKワールドTV、ラジオ日本でそれぞれ記念番組を放送した。

また、6月15日からは、NHKワールドTVの番組をウェブサイトから視聴できるVODサービスを開始した。国内外とも無料で、開始当初は13番組について主に放送後1～2週間の「見逃し視聴」として実施し、徐々に拡充する計画。

6. 受信料制度のあり方 自民党小委が提言

自民党情報通信戦略調査会の放送法の改正に関する小委員会が15年9月、第1次提言をまとめた。提言はまず、受信料の徴収経費を削減しつつ公平負担を実現するため、支払いの義務化に向けた制度設計を行うとともに、支払い率向上に資する仕組みを検討するよう求めている。また、番組のインターネット常時同時配信の早期実現に向けたロードマップを策定したうえで、その際の実受信料制度のあり方を欧米のケースを十分検証しつつ検討すること。さらに、こうした施策による支払い率の向上や経費節減によって、どの程度受信料を値下げできるのか、インターネット配信、4K・8K、放送センターの建て替えに必要な経費等も踏まえ、シミュレーションを行うことを求めている。

7. 新放送センター

NHKは15年6月、老朽化が進む東京・渋谷の放送センターを現在と同じ場所で順次建て替えを行い、25年から一部施設の運用開始を目指すとする基本整備方針を公表した。新放送センターの延べ床面積は14年度予算策定時に想定した約26万平方メートルを基本に今後検討する。

Ⅲ. 民間放送と各メディアの動き

1. テレビの広告費が前年割れ

電通が公表した「2015年 日本の広告費」によると、15年の総広告は6兆1,710億円に上り、対前年比で0.3%増となった。このうち、テレビは1兆9,323億円で対前年度比1.2%減となった。ラジオは1,254億円で対前年度比1.4%減だった。一方、インターネットは1兆1,594億円で、前年比10.2%増だった。

2. 動画配信サービス参入あいつぐ

15年度は、新たな動画配信サービスが次々と生

まれ、動画配信ビジネスの競争が一気に激しくなった。まず、VODの分野では、14年に日本テレビが買収したHuluが徐々に会員数を増やす中、4月には、会員数が国内で最も多いdビデオが、サービスブランドをdTVと変え、テレビでの視聴機会を増やすため、HDMIで接続する新デバイスを発売した。

こうした中で、15年9月には、世界最大の動画配信サービス事業者Netflixが日本でのサービスを開始した。サービスは、S-VODと呼ばれる定額見放題の3プランで、ハリウッド映画やオリジナルコンテンツのほか、フジテレビやNHKなど放送局制作のドラマなども含まれる。

また、Amazonも同じく9月から、プライム会員を対象に追加料金なしに行う見放題の動画配信サービス「プライム・ビデオ」を始めた。

こうした動きの中で、それぞれ放送した番組の見逃し配信サービスを展開していた在京の民放キー局の5局（日本テレビ、テレビ朝日、TBSテレビ、テレビ東京、フジテレビ）が、テレビ番組を放送終了後から約1週間、広告付きで無料配信（AD-VOD）する共同サイト「TVer（ティーバー）」のサービスを10月に開始した。広がり続ける違法動画サイトでの視聴を食い止めようというのが大きな狙い。配信コンテンツは、各社放送中のドラマやバラエティー（各社週に10～15番組）で放送終了後から次回放送までの間（基本1週間程度）に配信する。利用できるデバイスは、スマートフォン・タブレット、パソコンで、サービス全体の約7割がスマートフォン・タブレットからの利用だという。サービス開始後約3週間で、アプリのダウンロード数は100万を超え、2月25日には200万超えと、当初予想を上回る順調な滑り出しを見せた。

その後もS-VOD参入の動きは続き、16年2月には、大手レンタルチェーンのゲオがエイベックスと協力して定額見放題の「ゲオチャンネル」をスタートさせた。映画やドラマだけでなく成人向けコンテンツを加え、差別化を図っている。さらに無料映像配信サービスを展開してきたGYAOも、同じく2月から、定額見放題の「プレミアムGYAO!」をスタートさせた。

一方、同時配信の分野では、テレビ東京が15年4月から「テレビ東京ビジネスオンデマンド」内で、月曜から金曜の朝に放送しているニュースに限って、同時無料配信を開始した。

また、東京メトロポリタンテレビジョンは、7月からスマートフォンとタブレット向けに、放送

との同時配信を開始した。視聴者は「エムキャス」という名称の無料アプリをダウンロードして番組を視聴する。同社は東京のローカル局だが、系列局を持たないという立場を生かして同時配信を始めたもので、これによって放送対象地域以外でも同社の番組の視聴が可能になった。当面は1年間の実証実験という位置づけで、スポンサーの反応を見極めるとともに、権利処理などについて検討を重ねている。

また、SNSサービスのLINEは、12月からパソコンとスマートフォン向けに、動画を無料でライブ配信する「LINELIVE」のサービスを開始した。3か月間の延べ視聴者数が累計で1億人を越えたという。

16年3月からは、レンタルブログサービス「Ameba」を運営するサイバーエージェントとテレビ朝日が共同で、インターネット放送局をめざす無料ライブ配信の「AbemaTV」を12チャンネルで先行配信、4月からは24チャンネルで本開局した。

3. 決算

在京民放キー局5社の16年3月期連結決算によると、テレビ広告費が低迷傾向のなか放送外収入の確保につとめる一方、番組制作費を抑えるなどの対策を進め、フジ・メディア・ホールディングス（HD）を除く4社が増収増益となった。

フジ・メディア・HDは、視聴率が伸び悩んで広告収入が減少し、売上高は6,405億円と14年度を0.4%下回ったが、都市開発事業など放送以外の事業で補い、最終利益は14.7%増の228億円だった。日本テレビHDは、視聴率が好調で広告収入が伸び、売上高が4,147億円（前年度比14.4%増）に達し、最終利益は368億円（21.1%増）になった。東京放送（TBS）HDは、不動産事業が貢献し、売上高が3,485億円（0.2%増）、最終利益は144億円（13.2%増）であった。テレビ朝日HDは、売上高2,807億円（1.6%増）、最終利益が121億円（10.7%増）で、テレビ東京HDは、売上高が1,362億円（5.9%増）、最終利益は47億円（52.3%増）であった。

4. 番組

ビデオリサーチ調べの関東地区の世帯視聴率によると、15年度によく見られた民放の番組は、『SMAP×SMAP』（16.1.18）、『第92回東京箱根間往復大学駅伝競走往路』（16.1.2）、『同・復路』（16.1.3）、『24時間テレビ38愛は地球を救う

PART10』（15.8.23）、『世界野球プレミア12・日本×韓国』（11.19）などであった。

IV. 倫理・ジャーナリズム

1. 放送法解釈をめぐる国会論議

15年6月、自民党の若手議員らが開いた勉強会で報道機関を批判する意見が相次いだことを受け、日本民間放送連盟の井上弘会長は、言論・表現の自由を基盤とする民主主義社会を否定するもので容認しがたいとするコメントを発表。日本新聞協会編集委員会も、報道の自由を否定しかねないとして抗議声明を出した。

16年2月に開かれた衆議院予算委員会で、高市早苗総務大臣が、放送事業者が政治的に公平性を欠く放送を繰り返した場合に、電波法に基づき電波の停止を命ずる可能性について答弁したことについて、これを批判する野党との間で論議が交わされた。高市大臣は予算委員会で、「きわめて慎重な配慮のもと運用すべきだ」としながらも、「将来にわたって罰則規定を一切適用しないということは担保できない」と繰り返し答弁した。これに関連して政府は「番組全体を見て判断する」というこれまでの解釈を補充的に説明したものだ」などとする統一見解を同理事懇談会に提出した。

2. 放送倫理・番組向上機構（BPO）

放送倫理・番組向上機構（以下BPO）にとって、15年度は、エポックメイキングな1年であった。ひとつには、BPOの認知度が高まるにつれ、一般視聴者からの意見が増え、15年度は2万件以上と14年度を4,000件余りも上回った。特に人気アイドルグループ・SMAPの解散が取り沙汰された際には、2,800件もの視聴者の声が寄せられ、BPOが身近な存在になっていることを印象づけた。

こうした中、BPO3委員会の活動は、放送倫理検証委員会が、1事案について委員会意見を公表したほか、放送人権委員会は6事案の委員会決定を、青少年委員会は「委員会の考え」1件と「委員長コメント」1件をそれぞれ公表した。

このうち、放送倫理検証委員会の審議事案と放送人権委員会の申立事案は同一番組に関するもので、2つの委員会が同じ番組について、それぞれ委員会決定を出したのは初めてのケースである。また、放送人権委員会では、同一の番組について

異なる2人から人権侵害の申し立てがあり、それぞれ委員会決定を出したほか、ラジオ番組について初めての委員会決定を出した。以下、委員会別にまとめる。

(1) 放送倫理検証委員会

NHK総合テレビの『クローズアップ現代』（14年5月14日放送）とそのもとになった『かんさい熱視線』で取り上げられた“出家詐欺”の報道に対し、「重大な放送倫理違反があった」という「意見」を公表した。（右段下）

(2) 放送人権委員会

放送人権委員会は、放送番組によって生じた名誉、信用、プライバシーなどについて、侵害された人からの「申し立て」を受けて対応することを原則にしているが、この申し立てはこのところ年々増えている。

15年度は、前年度からの継続事案が3件あったのに加え、新たに6件の審理入りがあり、あわせて9件を審理し、「勧告」「見解」それぞれ3件のあわせて6件の委員会決定を公表した。このうち、NHK“出家詐欺”報道についての「勧告」については、後述することとし、以下5件の委員会決定について概要を記す。

「大阪府議からの申し立て」（TBSラジオ）

14年8月に放送された『JUNKおぎやはぎのメガネびいき』で、お笑いタレントの「おぎやはぎ」が、山本景大阪府議会議員（当時）の中学生とのトラブルについて語った際、「キモイ」などと発言し、「侮辱罪にあたる可能性が高い」として申し立てられたもの。これについて、委員会は15年4月、本件放送は申し立て人の名誉を毀損したり名誉感情を侵害したりするものでなく、取り上げる放送倫理上の問題もないという「見解」を公表した。

「謝罪会見報道への申し立て」（TBSテレビ）

14年3月に放送された情報バラエティー番組『アッコにおまかせ!』で、楽曲の代作問題で謝罪した佐村河内守氏を取り上げた際、「聴覚障害者を装って会見に臨んだような印象を与え、名誉を侵害した」として佐村河内氏が申し立てた。委員会は、15年11月、申立人の名誉を毀損する人権侵害があったと言わざるを得ないという「勧告」を公表した。

「大喜利・バラエティーへの申し立て」

（フジテレビ）

14年5月放送の大喜利形式のバラエティー番組『IPPONグランプリ』で、「幻想音楽家 田村河内さんの隠し事を教えてください」というお題に

回答した内容について、佐村河内氏が、「一音楽家にすぎない申立人を“お笑いのネタ”として笑い物にするもので、申立人の名誉感情を侵害する侮辱にあたる」と申し立てた。委員会は15年11月、許容限度を超えて申立人の名誉感情を侵害するものとは言えず、放送倫理上の問題もないとの「見解」を公表した。

「ストーカー事件再現ドラマへの申し立て」

（フジテレビ）

15年3月に放送されたバラエティー番組『ニュースな晩餐会』で、食品会社を舞台にしたストーカー事件と背景の社内いじめ行為を取り上げた際、取材相手から提供された映像や再現ドラマを合わせて編集したVTRを放送した。これに対し食品工場で働く女性が、再現ドラマでは自分が社内いじめの“首謀者”とされ、名誉を毀損されたと申し立てた。委員会は16年2月、本件放送には人権侵害があったという判断を示す「勧告」を公表した。

「ストーカー事件映像に対する申し立て」

（フジテレビ）

上記と同じ『ニュースな晩餐会』の放送の中で、取材協力者から提供された映像でストーカー行為をしたとされた男性が、映像のボカシが薄く、自分が特定されるとして人権侵害を申し立てた。委員会は2月、「見解」として、人権侵害があったとは認められないが、放送倫理上問題があるとの判断を示した。

(3) 放送と青少年に関する委員会

15年度はテレビ東京の『ざっくりハイタッチ』で12月に放送された内容に関して「委員会の考え」を公表した。番組は「赤ちゃん育児教室」と題し、芸人のおむつを脱がせたり、ローションで刺激したりしたもので、「“下品、卑わいな表現は避ける”を心に留め、番組制作にあたることを望みます」と指摘した。

3. NHK“出家詐欺”報道

(1) 放送とNHK調査報告書

NHKは14年4月25日、報道番組『かんさい熱視線』で特集「追跡“出家詐欺”～狙われる宗教法人～」を関西ローカルで放送した。5月14日には、報道番組『クローズアップ現代』で、『かんさい熱視線』をベースにしたほぼ同じ内容の「追跡“出家詐欺”～狙われる宗教法人～」を全国放送した。番組では、寺院で「得度」の儀式を受け、法名を授けられると戸籍の名を法名に変更できることを悪用した“出家詐欺”が広がっていると報

道した。

その後15年3月になって、番組内で出家詐欺を斡旋する「ブローカー」と紹介された男性が、「多重債務者」との相談シーンはNHK記者の演技指導によるやらせ取材だったと雑誌で告発し、4月1日にNHKに訂正を求めた。NHKは弁護士など外部委員3人を含めた調査委員会を設け、職員や外部スタッフ、それに訂正を求めた男性など43人から聞き取りを行うなど調査を進め、4月28日に調査報告書を公表した。

報告書では、「意図的または故意に、架空の場面を作り上げたり演技させたりして、事実のねつ造につながるいわゆる“やらせ”はない」と判断した。一方で、裏付けのないままこの男性をブローカーであると断定的に伝え、相談場所を「活動拠点」と誤ってコメントしたことなどは適切でなかったとし、「放送ガイドラインを逸脱する“過剰な演出”や“視聴者に誤解を与える編集”が行われていた」としている。

NHKは、この報告書の内容をニュースや同番組で伝え、陳謝した。また、番組の担当記者を停職3か月の懲戒処分とするなど、関係者15人の処分を発表した。

この問題を受けてNHKは、再発防止策として、すべてのニュース・番組を対象に「匿名での取材・制作のチェックシート」を導入したほか、直接の担当者とは別の職員や上司などの複眼的試写の実施、研修や勉強会によるジャーナリストとしての再教育などの対策を進めた。

(2) BPOの委員会決定

NHKの調査報告について、BPOの放送倫理検証委員会は、「やらせと認定すべき事実があったかどうかに関心が絞られ、2つの番組の取材・制作過程についての放送倫理の観点からの検証が不十分」として審議に入り、11月に委員会決定としての「意見」を公表した。この中で、「番組の相談場面は、ブローカーの活動実態をはじめとして、事実とは著しく乖離した情報を数多く伝え、正確性に欠けて」いるなどと指摘したうえで、「重大な放送倫理違反があったと判断した」としている。

一方、BPOの放送人権委員会はこれとは別に、匿名映像でブローカーと紹介された男性が「知り合いから自分だと簡単に特定された」として、人権侵害と名誉・信用の毀損を訴える申立てを受けて、別途審理し、12月に「勧告」を公表した。「勧告」では、「映像を詳細に検討しても、申立人と特定できるものではない」として、「人権侵害には当たらない」と結論づけた。一方で、ブローカ

ーかどうかについて、「必要な裏付け取材を欠いたまま」「虚構を視聴者に伝えた」などと指摘し、「放送倫理上重大な問題があった」と判断している。

この番組をめぐるのは、15年4月28日、総務大臣がNHKに対し文書で嚴重注意の行政指導を行った。BPOの両委員会は、それぞれの「意見」「勧告」の中で、これらの根拠とされた放送法4条の規定について、放送事業者が自らを律するための「倫理規範」であるとの認識を示し、個々の番組の内容に介入するのは適当ではないと批判した。

これに対して、高市総務大臣は、11月10日の会見で、「放送法の解釈、特に第4条が単なる倫理規定ではなく、法的な規範性を持つ規定であるということについては事実」と反論した。

V. 安心・安全

1. 平成27年9月関東・東北豪雨

台風18号と低気圧の影響で15年9月9日から11日にかけて関東・東北地方で記録的な豪雨となった。19の河川で堤防が決壊し、67の河川で氾濫が発生。約2万棟が浸水し、茨城県・栃木県・宮城県で8人が死亡した。このうち茨城県常総市では市内を流れる鬼怒川が決壊し、約1万1,000棟が浸水。市は約1万2,000世帯・約3万4,000人を対象に避難指示や避難勧告を出したが、多くの住民が浸水域に取り残され、ヘリコプターやボートで約4,000人が救助された。

NHKは台風の接近に伴い、8日からニュースや気象情報で警戒を呼びかけ、特設ニュースで各地の被害や交通への影響、氾濫危険情報や大雨特別警報などの防災情報をきめ細かく伝えた。10日午後0時50分に常総市で鬼怒川が決壊した直後からは、ヘリコプターによる中継映像で、住民の救出や浸水した地域の状況をリアルタイムで伝えた。

また、NHKは10日午前1時すぎから11日午前7時30分まで、台風と豪雨関連のニュースをインターネットで同時配信。訪問者数は2日間で300万人を超えた。宇都宮・水戸・仙台局では、各局のホームページやデータ放送で災害関連情報や被災者向けのライフライン情報を伝えるなど、多メディアで情報を発信した。

なお、関東・東北豪雨では多くの市町村が避難勧告や避難指示を発表したが、これらの情報を報道機関等に伝える防災情報共有システム「Lアラ

ート」に情報が入力されなかったり、不具合が発生したりした地域もあり、災害時の情報伝達に課題を残した。

2. 臨時災害放送局

東日本大震災後、27の自治体では、復旧・復興のための情報伝達を担う臨時災害放送局が開局したが、震災から5年経過したことを受け、岩手県大槌町、宮城県女川町・亘理町の3局が閉局した。岩手県釜石市・陸前高田市など6局は存続する。

「放送90年」関連番組

波	番組名	放送日 ^(注1)	放送時間
G	日本列島誕生～大絶景に超低空で肉薄！～	2015年1月2日(金)	19:30～20:43
G	NHKスペシャル ネットワールド 私たちの未来 「第1回 未来はどこまで予測できるのか」	2015年1月3日(土)	19:30～20:43
G	NHKスペシャル ネットワールド 私たちの未来 「第2回 寿命はどこまで延びるのか」	2015年1月4日(日)	21:15～22:04
G	NHKスペシャル ネットワールド 私たちの未来 「第3回 人間のパワーはどこまで高められるのか」	2015年1月24日(土)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル ネットワールド 私たちの未来 「第4回 人生はどこまで楽しくなるのか」	2015年1月25日(日)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル ネットワールド 私たちの未来 「第5回 人間のフロンティアはどこまで広がるのか」	2015年2月8日(日)	21:00～21:58
G	認知症キャンペーン「認知症 わたしたちができること」	2015年2月24日(火)	22:00～22:49
G	認知症キャンペーン「これが認知症を防ぐチョイスだ！」	4月27日(月)	22:00～22:49
G	認知症キャンペーン「認知症介護 家族の悩みにこたえます」	7月15日(水)	22:00～22:49
G	認知症キャンペーン「アルツハイマー病 進行をくい止める！」	9月8日(火)	22:00～22:49
G	認知症キャンペーン特集「認知症の私からあなたへ」	11月17日(火)	22:00～22:49
G	NHK認知症キャンペーン 「わたしが伝えたいこと ～認知症の人からのメッセージ～」	12月14日(月)	〔第一部〕22:00～22:50 〔第二部〕22:55～23:20
G	ひるまほっと「認知症キャンペーン」5分ミニ番組	随時	
G	放送90年ドラマ「紅白が生まれた日」	2015年3月21日(土)	21:00～22:13
G	放送記念日特集「放送90年 歴史を見つめ未来を開く」	2015年3月21日(土)	23:00～23:59
G	高校野球100年「あの感動シーンを熱球トーク！」	2015年3月23日(月)	19:30～20:43
G	超体感！古代モンスター復活ミュージアム	4月27日(月)	19:30～20:43
G	挑戦！人類200万年の旅～大英博物館展～	5月5日(火)	10:55～11:38
G	NHKスペシャル 生命大躍進 第1集「そして“目”が生まれた」	5月10日(日)	21:00～21:58
G	NHKスペシャル 生命大躍進 第2集「こうして“母の愛”が生まれた」	6月7日(日)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル 生命大躍進 第3集「ついに“知性”が生まれた」	7月5日(日)	21:00～21:49
G	高校野球100年 レジェンドが語る名勝負の秘密 「第1回 激闘の延長戦」	8月6日(木)	22:55～23:20
G	高校野球100年 レジェンドが語る名勝負の秘密 「第2回 敗北こそが、わが思い出」	8月7日(金)	22:55～23:20
G	高校野球100年 レジェンドが語る名勝負の秘密 「第3回 初々しさの快進撃」	8月10日(月)	22:55～23:20
G	高校野球100年 レジェンドが語る名勝負の秘密 「第4回 奇跡の逆転劇」	8月11日(火)	22:55～23:20
G	放送90年ドラマ 経世済民の男 「高橋是清」(前・後編)	〔前編〕8月22日(土) 〔後編〕29日(土)	21:00～21:58
G	放送90年ドラマ 経世済民の男 「小林一三」(前・後編)	〔前編〕9月5日(土) 〔後編〕12日(土)	21:00～21:58
G	放送90年ドラマ 経世済民の男 「鬼と呼ばれた男～松永安左エ門」	9月19日(土)	21:00～22:00
G	ドキュメント 生命大躍進 「第1集 そして“目”が生まれた」	9月6日(日)	0:50～ 1:49
G	ドキュメント 生命大躍進 「第2集 こうして“母の愛”が生まれた」	9月13日(日)	0:50～ 1:42

第1部 2015年度の動き | 第1章 放送界の動き

波	番組名	放送日 ^{注1)}	放送時間
G	ドキュメント 生命大躍進 「第3集 ついに“知性”が生まれた」	9月20日(日)	0:50～1:42
G	NHKスペシャル アジア巨大遺跡 第1集「密林に消えた謎の大都市～カンボジア アンコール遺跡群～」	10月17日(土)	19:30～20:40
G	NHKスペシャル アジア巨大遺跡 第2集「黄金の仏塔 祈りの都～ミャンマー バガン遺跡～」	10月18日(日)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル アジア巨大遺跡 第3集「地下に眠る皇帝の野望～中国 始皇帝陵と兵马俑～」	11月7日(土)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル アジア巨大遺跡 第4集「縄文 奇跡の大集落～1万年 持続の秘密～」	11月8日(日)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル 新・映像の世紀 「第1集 百年の悲劇はここから始まった」	10月25日(日)	21:00～22:13
G	NHKスペシャル 新・映像の世紀 「第2集 グレートファミリー 新たな支配者」	11月29日(日)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル 新・映像の世紀 「第3集 時代は独裁者を求めた」	12月20日(日)	21:00～22:13
G	NHKスペシャル 新・映像の世紀 「第4集 世界は秘密と嘘(うそ)に覆われた」	2016年1月24日(日)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル 新・映像の世紀 「第5集 若者の反乱が世界に連鎖した」	2016年2月21日(日)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル 新・映像の世紀 「第6集 あなたのワンカットが世界を変える」	2016年3月20日(日)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル シリーズ認知症革命 第1回「ついにわかった! 予防への道」	11月14日(土)	21:00～21:49
G	NHKスペシャル シリーズ認知症革命 第2回「最後まで、その人らしく」	11月15日(日)	21:00～21:49
G	特集ドラマ 海底の君へ	2016年2月20日(土)	19:30～20:43
G	放送90年大河ファンタジー 精霊の守り人 (1)「女用心棒バルサ」	2016年3月19日(土)	21:00～22:13
G	放送90年大河ファンタジー 精霊の守り人 (2)「王子に宿りしもの」	2016年3月26日(土)	21:00～21:58
E	いじめをノックアウトスペシャル 第5弾「小さな思いが、つながるとき…」	2015年3月21日(土)	〔第1部〕19:00～19:55 〔第2部〕20:00～20:55
E	いじめをノックアウト番外編 「いじめをノックアウトサミット どうする?! SNSいじめ」	6月28日(日)	15:50～16:15
E	いじめをノックアウトスペシャル 第6弾「ボクたちは、あきらめない。」	10月10日(土)	〔第1部〕19:00～19:55 〔第2部〕20:00～20:45
E	いじめをノックアウトスペシャル 第7弾「僕にできること。君にしかできないこと。」	2016年3月19日(土)	〔第1部〕19:00～19:55 〔第2部〕20:00～20:45
E	日曜美術館 「アートの旅スペシャル みつけよう、美」	2015年4月12日(日)	9:00～10:00
E	ピカイア! (全13回)	4月29日(水) ～7月30日(木)	10:00～10:15
BS1	高校野球100年のものがたり わがふるさとのベストゲーム	7月10日(金)・17日(金)・ 21日(火)・23日(木) 7月27日(月) 8月1日(土)	19:00～21:49 20:00～21:49 20:00～21:32
BSP	ザ・プレミアム「深海のロストワールド 追跡! 謎の古代魚」	2015年3月21日(土)	21:30～22:59
R1・ 一部 FM	90時間ラジオ ^{注2)}	2015年3月19日(木) 6:00 ～22日(日) 24:00	
R1	モノが語る世界の歴史 (30回シリーズ)	4月6日～24日(月～金) 5月11日～29日(月～金)	1:45～1:55 (ラジオ深夜便内)

注1) 再放送は記載していない

注2) 番組の詳細は『NHK年鑑2015』

「戦後70年」関連番組

波	番組名	放送日 ^(注)	放送時間
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 「プロローグ 私たちはどう生きてきたか」	2015年1月1日(木)	21:00~22:13
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 -日本人と象徴天皇-「第1回 “戦後”はこうして誕生した」	4月18日(土)	21:00~21:49
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 -日本人と象徴天皇-「第2回 平和を願いつづけて」	4月19日(日)	21:00~21:49
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 豊かさを求めて 「第1回 “高度成長”何が奇跡だったのか」	5月30日(土)	21:30~22:19
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 豊かさを求めて 「第2回 “バブル”と“失われた20年”何が起きていたのか」	5月31日(日)	21:00~22:25
G	NHKスペシャル「沖縄戦 全記録」	6月14日(日)	21:00~21:58
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 -世界の中で- 「第1回 信頼回復への道」	6月19日(金)	22:00~22:49
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 -世界の中で- 「第2回 冷戦 日本の選択」	6月20日(土)	21:00~21:49
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 -世界の中で- 「第3回 “平和国家”の試練と模索」	6月21日(日)	21:00~21:49
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 -政治の模索- 「第1回 保守・二大潮流の系譜」	7月18日(土)	21:00~21:49
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 -政治の模索- 「第2回 “豊かさの分配”その先に」	7月19日(日)	21:00~21:49
G	NHKスペシャル「密さの戦争～発掘・日本人捕虜の肉声～」	8月2日(日)	21:00~21:49
G	NHKスペシャル「きこの雲の下で何が起きていたのか」	8月6日(木)	19:30~20:35
G	平成27年 広島平和記念式典～広島平和公園から中継～	8月6日(木)	8:00~ 8:39
G	NHKスペシャル 「憎しみはこうして激化した～戦争とプロバガンダ～」	8月7日(金)	22:00~22:50
G	NHKスペシャル「特攻～なぜ拡大したのか～」	8月8日(土)	22:00~22:50
G	平成27年 長崎平和祈念式典	8月9日(日)	10:30~11:48
G	NHKスペシャル 「“あの子”を訪ねて～長崎・山里小 被爆児童の70年～」	8月9日(日)	21:00~21:49
G	戦後70年 一番電車が走った	8月10日(月)	19:30~20:43
G	NHKスペシャル アニメドキュメント 「あの日、僕らは戦場で～少年兵の告白～」	8月11日(火)	19:30~20:43
G	NHKスペシャル 「女たちの太平洋戦争～従軍看護婦 激戦地の記録～」	8月13日(木)	22:00~22:49
G	解説スタジオムスペシャル「戦後70年 日本の針路を考える」	8月15日(土)	0:00~ 2:00
G	アニメ 団地ともお スペシャル 「夏休みの宿題は終わったのかよ?ともお」	8月14日(金)	8:15~ 8:59
G	全国戦没者追悼式	8月15日(土)	11:50~12:06
G	NHKスペシャル 「カラーでみる太平洋戦争～3年8か月・日本人の記録～」	8月15日(土)	20:00~21:00
G	NHKスペシャル 戦後70年 ニッポンの肖像 -戦後70年を越えて-「日本人は何ができるのか」	8月15日(土)	21:15~22:44
G	NHKスペシャル「“終戦”知られざる7日間」	8月16日(日)	21:00~21:58
G	NHKスペシャル「作家 山崎豊子～戦争と人間を見つめて～」	9月27日(日)	21:00~21:58
G	NHKスペシャル 「私が愛する日本人へ～ドナルド・キーン 文豪との70年～」	10月10日(土)	21:00~21:58
G	NHKスペシャル「盗まれた最高機密～原爆・スパイ戦の真実～」	11月1日(日)	21:00~21:49
E	戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 未来への選択 第1回「高齢化社会・医療はどう向き合ってきたのか」	7月4日(土)	23:00~ 0:30
E	戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 未来への選択 第2回「男女共同参画社会 女たちは平等をめざす」	7月11日(土)	23:00~ 0:30
E	戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 未来への選択 第3回「公害先進国から環境保護へ」	7月18日(土)	23:00~ 0:30
E	戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 未来への選択 第4回「格差と貧困～豊かさを求めた果てに～」	7月25日(土)	23:00~ 0:30
E	戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 未来への選択 第5回「教育～“知識”か“考える力”か～」	2016年1月9日(土)	23:00~ 0:30
E	戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 未来への選択 第6回「障害者福祉～共に暮らせる社会を求めて～」	2016年1月16日(土)	23:00~ 0:30

第1部 2015年度の動き | 第1章 放送界の動き

波	番組名	放送日 ^{注)}	放送時間
E	戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 未来への選択 第7回「難民・外国人労働者～異国の民をどう受け入れてきたのか～」	2016年1月23日(土)	23:00～0:30
E	戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 未来への選択 第8回「エネルギー消費社会～新たなエネルギーを求めて～」	2016年1月30日(土)	23:00～0:30
E	ウワサの保護者会「親子で話してる?戦争のこと平和のこと」	2015年8月6日(木)	22:25～22:49
E	Rの法則「戦後70年 戦死した若者の詩×声優・浪川大輔」	8月13日(木)	18:55～19:25
E	アニメ おじゃる丸スペシャル「わすれた森のヒナタ」	8月14日(金)	18:55～19:24
E	ハートネットTV シリーズ 戦後70年 ある知的障害者たちの戦中戦後記 第1回「消え入った10の命」	8月19日(水)	20:00～20:30
E	ハートネットTV シリーズ 戦後70年 ある知的障害者たちの戦中戦後記 第2回「“ニュースさん”」	8月20日(木)	20:00～20:30
E	ハートネットTV シリーズ 戦後70年 障害者と戦争 ナチスから迫害された障害者たち 第1回「20万人の大虐殺はなぜ起きたのか」	8月25日(火)	20:00～20:30
E	ハートネットTV シリーズ 戦後70年 障害者と戦争 ナチスから迫害された障害者たち 第2回「ある視覚障害者の抵抗」	8月26日(水)	20:00～20:30
E	ハートネットTV シリーズ 戦後70年 障害者と戦争 ナチスから迫害された障害者たち 第3回「命の選別を繰り返さないために」	9月15日(火)	20:00～20:30
E	マルタ・アルゲリッチ&広島交響楽団 被爆70年・平和への祈り	8月30日(日)	0:00～1:55
BS1	BS1スペシャル 「極秘指令・ウラン燃料を回収せよ～戦火の原子炉 40年目の真実～」	7月20日(月)	22:00～22:49
BS1	BS1スペシャル「ヒロシマ 世界を変えたあの日」	8月7日(金)	20:00～21:49
BS1	BS1スペシャル 「戦火のマエストロ・近衛秀麿 ～ユダヤ人の命を救った音楽家～」	8月8日(土)	20:00～21:49
BS1	八月十五日、私は～著名人が語る戦争～	8月9日(日)	20:00～20:50
BS1	BS1スペシャル「戦場の真心チムグル～沖縄を救った日系人～」	8月10日(月)	21:00～22:49
BS1	BS1スペシャル「武士の娘 鏡子とフローレンス～奇跡のベストセラーを生んだ日米の絆～」	8月11日(火)	21:00～22:49
BSP	BEGINうたの日コンサート～沖縄がうたに感謝する日～	7月26日(日)	22:50～0:19
BSP	ザ・プレミアム「玉音放送を作った男たち」	8月1日(土)	19:30～20:59
BSP	ザ・プレミアム「ドキュメンタリードラマ 戦後ゼロ年」	8月15日(土)	21:30～22:59
BSP	やっぱり平和がいいに決まってる! ～南こうせつ 広島平和祈念コンサート～	8月23日(日)	13:00～14:13
BSP	戦後70年 プレミアムヒストリー 「知られざる陸軍終戦工作 あなたは“弱気の勇氣”がもてますか?」	8月27日(木)	20:00～20:59
R1	被爆70年原爆の日ラジオ特集 被爆者の心を受け継ぐ	8月6日(木)	20:05～21:55
R1	戦後70年 おきなわ PEACE LIVE	8月8日(土)・9日(日)	22:10～23:00
R1	被爆70年長崎原爆の日ラジオ特集「ナガサキ 歌の語り部たち」	8月9日(日)	20:05～20:55
R1	戦後70年関連番組 「響け、長崎の鐘」	8月9日(日)	21:05～21:55
R1	語りの劇場 グッとライフ～戦後70年・平和を語り継ぐ～	8月10日(月)	20:05～21:55
R1	いとうせいこう トークンセッション 2015夏	8月14日(金)	20:05～21:55
R1	終戦の日特集 お便利ラジオ4 ～今を生きる私から 30年後のあなたへ～	8月15日(土)	19:25～20:55
R1	戦後70年 「みんな、戦争のこと、知ってる?」	8月15日(土)	21:05～23:00
R1	遠くなる戦争を語り継ぐ～女性ノンフィクション作家の対話～	8月16日(日)	20:05～20:55
R1	ジセダイの逸材 「ジセダイを生きる戦争論～表現者が描く“戦後70年”～」	8月16日(日)	21:05～23:00
FM	特集オーディオドラマ 「昭和20年のベートーベン～焼跡に響いた第九～」	8月15日(土)	21:00～22:00

注) 再放送は記載していない